

近畿中国局フォレスターNEWS

林業研究会との情報交換に出席



京都大阪森林管理事務所は2月24日に宮津市役所で、宮津市の篤林家による宮津市林業研究会が定期的で開催している情報交換会に京都府、宮津市、宮津地方森林組合と共に出席しました。

これは、近畿中国森林管理局主催で昨年10月21日に開催した由良川森林計画区地域懇談会に出席していた同研究会が、国有林との情報交換を行いたいとの意向から実現したものです。

国有林にとっても、本会議により民有林関係者に対する情報発信、情報収集、情報共有を行うことで、民国連携の推進に寄与することができる良い機会となりました。

情報交換会では京都大阪所から、平成26年度の近畿中国森林管理局の重点取組及び京都大阪所の取組、山村活性化支援交付金について情報提供しました。京都府からは、丹後地域における木質バイオマスエネルギー施設の稼働状況の説明、京都府立宮津高等学校建築科の取組紹介、宮津市からは、京都・宮津竹資源有効活用プロジェクトの説明、宮津地方森林組合からは、林ベニア産業(株)舞鶴工場の木材価格の動向の説明、シカ被害防除用の製品(幼齡木ネット)の紹介、林業研究会からは、篤林家としての現況報告がありました。山村活性化支援交付金については、宮津市が対象となる振興山村であるため出席者の関心は高く、同市も支援について検討しているとのことでした。

京都大阪所は、今後も引き続いて当会に出席し、国有林の情報発信を行います。

世界初の竹からの発電施設 農林バイオマス3号機

本利用竹資源のチップ加工、粉体加工及び原料燃料化
3mm程度に粉砕した木質バイオマスと水素炭素を高温の反応槽内で化学反応させることにより、タールを含まないクリーンな高カロリーガス燃料を精製し発電する。

施設の概要	農林バイオマス3号機 平成23年9月完成
竹の投入容量: 1t/時 (約25本~30本)	バイオメタノール 約2.8/時(最大) 電力 約30kwh/時(最大)
竹チップ製造量: 850kg/時 竹粉製造量: 150kg/時	

京都・宮津竹資源有効活用プロジェクト資料

民国連携した林業専用道現地検討会を開催



縦木平林業専用道の説明



皿山林業専用道の説明

三重森林管理署は三重県内での林業専用道の普及のため、三重県林業普及指導員と連携して、2月24日に森林共同施業団地である熊野市に所在する大又国有林並びに市有林で、林業専用道現地検討会を開催しました。

当日は、三重県、熊野市、御浜町、紀北町、三重くまの森林組合等の林業・林道関係者37名の参加がありました。

現地検討会では、大又国有林で実施している搬出間伐箇所を対岸から視察した後に、三重署から、大又国有林の概要、熊野市と協定している大又森林共同施業団地の概要、林業専用道の指針、縦木平林業専用道の路線選定、現地の工種の説明を行いました。また、三重県から市有林での林業専用道の全体計画、熊野市から、現在工事を進めている皿山林業専用道の工事概要について説明がありました。

参加者からは、急峻な地形での林業専用道の法面緑化方法やセメント安定処理工の設計単価等について質問があり、法面緑化方法や設計単価等について回答しました。

三重署は今後も三重県と連携して、地域の林業活性化に取り組むため、地域の実情に応じた現地検討会の開催等を行います。

森林整備事業連絡協議会を開催



第3回森林整備事業連絡協議会

広島北部森林管理署は、2月25日に同署会議室で平成26年度第3回甲野村山地域森林整備事業連絡協議会を開催しました。

この協議会は、甲野村山地域森林共同施業団地内で、アサヒの森と国有林が連携して間伐事業を実施するに当たり、関係者による情報共有や意見交換等を通じた円滑な事業実施や林業技術の向上等を目的に開催してきました。今回は、隣接する民有林を団地の区域に加える次期協定の締結に向けて、森林農地整備センター広島水源林整備事務所が新たにメンバーとして参加し、今年度の事業完了に伴う活動の取りまとめや意見交換を行いました。

具体的には、今年度の民国協調して実施した活動内容、木材の生産販売結果、開設した林内路網の民国接続ポイント等についての情報共有と共に、3月末に予定している次期協定の締結について、協定内容や調印式等の打合せを行いました。

4月からスタートする新たな協定においては、これまでのアサヒの森環境保全事務所、広島北部森林管理署に加えて、新たに参加となる広島水源林整備事務所の3者が連携し、地域の森林・林業活性化に向けて様々な活動を行っていきたく考えています。

新たな架線集材システム検討会が開催される

2月25日、(株)自然産業研究所(滋賀県大津市)主催、和歌山県、架線集材の低コスト化・省力化技術研究会、(株)前田製作所の共催で、「新たな架線集材システム検討会(低コスト林業に向けた架線集材の自動化)」が和歌山県有田郡広川町下津木で開催されました。検討会には、行政機関、林業事業者、林業機械メーカー等、他府県からの参加者を含めて約160名の参加があり、和歌山森林管理署からも4名が参加しました。

今回は、和歌山県内の林業関係者で組織する研究会が、平成25年度に油圧式による集材機を開発し、今年度にリモコン操作と搬器の自動走行が出来るように改良したことから、油圧式架線集材機のデモンストレーションを行ったものです。この開発により、架線集材の操作性、作業の安全性の向上並びに低コスト化が実現しました。

現地では集材機のオペレーターにより、手動による操作とリモコン操作による集材の実演が行われました。集材機は半自動運転となっていて、荷掛と荷卸間の搬器は自動走行となっています。

和歌山署は、今後も県及び関係機関と連携し、新型機を普及するための情報共有や意見交換を実施していくと共に、急峻な地形の紀州地域における、路網整備と今回新たに開発された架線集材システムを組み合わせた作業システムの実用化に向け検討していきます。



リモコン操作・荷掛側



リモコン操作・荷卸側

※この取組は、林野庁委託事業の平成26年度次世代架線系高性能林業機械等開発推進事業です。

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

編集後記

平成26年度最後のフォレストナーNEWSの発行となりました。これまで民国連携に関する情報提供をいただきました皆様には、感謝申し上げます。

平成27年度もどうぞよろしく申し上げます。

来年度は、民有林担当者の方から情報提供いただき、各地域での取組に関する情報共有に努めたいことから、府県の方に情報提供をご依頼する場合もあるかと思しますので、どうかよろしく申し上げます。